

平成18年度第1回理事会

日 時 平成18年 4月21日（金） 13：30～

場 所 特別会議室

議 題

- 1 役員給与規程の一部改正について
- 2 平成18年度の会計監査人の選出について
- 3 平成18年度研究コーディネータ（COD）の業務分担
- 4 平成18年度科学研究費補助金等採択状況について（報告）
- 5 その他

資 料

- 1) 役員給与規程の一部改正について
- 2) 平成18年度の会計監査人の選出について
- 3) 平成18年度研究コーディネータ（COD）の業務分担
- 4) 平成18年度科学研究費補助金等採択状況について（報告）

理 事 会 資 料
平成18年4月21日
職 員 課

役員給与規程の一部改正について

1. 改正施行日：平成18年4月1日

2. 俸給月額等の改正

(1) 常勤役員の俸給月額

常勤役員の俸給月額については、一般職国家公務員指定職俸給表（以下、「指定職俸給表」という。）の改正（平均6.7%の引き下げ）に準拠し、俸給月額を改定する。

ただし、施行日前から引き続き常勤役員として在職している者に対する俸給月額は、改正後の役員給与規程附則において現給補償を規定し、改定前俸給月額を支給する。

(2) 非常勤役員手当

非常勤役員手当については、指定職俸給表の改正に伴い、当所における手当の積算基礎額である指定職俸給表2号俸（1～3号俸）が削除され、改正後の指定職俸給表における最低俸給月額となるが、改正前の積算基礎額を超えるため、役職員の給与構造の改革の状況に鑑み、改正前の俸給月額をすることとし、手当額の改定は行わない。

3. 調整手当を地域手当とし、支給率を変更

一般職国家公務員給与法に準じ、調整手当→地域手当とし、つくば市は支給率12%地域と指定されたことから併せて率の改正を行う。

改正前の支給率：100分の3

改正後の支給率：100分の12

ただし、改正後役員給与規程附則に基づき、18.4.1からの支給率は100分の4とすることとした。（附則に明記）

4. その他

理 事 会 資 料
平成 1 8 年 4 月 2 1 日
監 査 室

平成 1 8 年度の会計監査人の選任について

平成 1 8 年度の会計監査人の選任について、「独立行政法人通則法」第 3 9 条の規定により、当法人は会計監査人の監査を受けなければならないこととなっている。また、第 4 0 条の規定により、会計監査人は主務大臣（農林水産大臣）が選任することが定められている。

その際、「中央省庁等改革の推進に関する方針」Ⅲ－1 8－(2)により、当該法人の長は監事の同意を得た上で候補者の名簿を提出しその選任を求めることとされている。このことから、下記のとおり提案したい。

記

(候補者名)

新日本監査法人

(候補者とした理由)

新日本監査法人は、平成 1 3 年度以降、多くの独立行政法人の監査を行っている。また、独法化支援業務も実施しており、監査法人として独立行政法人会計制度に精通している。

さらに、当該監査法人の提案書によれば、監査法人としての経営規模、経歴、農林水産省関係独立行政法人の監査実績、監査報酬、監査体制の面からも妥当であると評価できる。

また、監査の実施に係る提案は、これまでの監査法人による監査実績に照らしても、十分な監査が期待できる。

(今後の予定)

理事会で確認（了承）された後、文書決裁し、農林水産大臣への選任請求を林野庁経由で行いたい。

理事会資料

18. 4. 21

平成18年度研究コーディネータ（COD）の業務分担について（案）

森林総合研究所組織規程第22条に基づく研究コーディネータ（COD）の業務分担を、別紙のとおり定める。

平成18年度研究コーディネータ(COD)の業務分担

組織規程による担当	氏 名	重点課題等責任者	特命事項
一 温暖化影響研究	佐藤 明	アアa 森林への温暖化影響予測と二酸化炭素吸収源の評価・活用技術の開発 (2) 研究の基盤となる情報の収集と整備の推進	研究報告編集委員会 責任者 地域研究(森林) 関東・中部対応
二 木質バイオマス利用研究	山本 幸一	アアb 木質バイオマスの変換・利用技術と地域利用システムの開発 イアb 木質系資源の機能と特性の解明	産学官連携
三 生物多様性・森林被害研究	福山 研二	アイa 生物多様性保全と野生生物等被害対策に向けた技術の開発 イイb 森林生態系における生物群集の動態の解明	広 報
四 国土保全・水資源研究	加藤 正樹	アイb 水土保全機能の評価及び災害の予測・被害軽減対策技術の開発 イイa 森林生態系における物質動態の解明	研究課題評価
五 木質資源利用研究	神谷 文夫	アイd 安全で快適な住環境の創出に向けた木質資源利用技術の開発 アウb 消費動向に対応したスギ材等林産物の高度利用技術の開発	地域研究(木材産業)
六 林業生産技術研究	加藤 隆	アウa 林業の活力向上に向けた新たな生産技術の開発 アイc 森林の保健・レクリエーション機能等の活用技術の開発	地域研究(林業)
七 生物機能研究	田崎 清	イアa 森林生物の生命現象の解明	統合問題
八 国際研究	沢田 治雄	アアa 森林への温暖化影響予測と二酸化炭素吸収源の評価・活用技術の開発	国際連携・協力

アアaの重点課題は温暖化影響研究担当研究コーディネータが主とし、国際研究担当研究コーディネータが副とする。

H18年度科学研究費補助金等採択について(結果)

戦略会議事務局

H18の科研費の採択結果

種目	応募総数	採択数	採択率%
基盤A	3	0	0
基盤A海外	4	2	50.0
基盤B	29	5	17.2
基盤B海外	6	0	0
基盤C	27	8	29.6
基盤C企画	4	0	0
萌芽	24	4	16.6
若手A	5	2	40.0
若手B	58	19	32.8
合計	160	40	25.0

H18の科研費の交付内定額

研究種目	内定件数	交付予定額		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(S)	1	22,500,000	6,750,000	29,250,000
基盤研究(A)	2(2)	20,400,000	6,120,000	26,520,000
基盤研究(B)	12(5)	49,500,000		49,500,000
基盤研究(C)	16(8)	19,200,000		19,200,000
萌芽研究	5(4)	8,800,000		8,800,000
若手研究(A)	3(2)	11,000,000	3,300,000	14,300,000
若手研究(B)	38(19)	41,000,000		41,000,000
総合計	77(40)	172,400,000	16,170,000	188,570,000

(平17完了課題:13課題) ()内は平18年度新規採択課題数

科研費の過去5年間の採択状況

応募年度	13	14	15	16	17
応募総数	70	103	100	144	160
採択数	18	20	20	35	40
採択率(%)	25.7	19.4	20.0	24.3	25.0
若手総数	17	22	29	54	63
採択数	5	6	7	13	22
採択率(%)	29.4	27.3	24.1	24.1	34.9

H18科研費分野別採択率

分野	分科	応募数	採択数	採 択 率 (%)
農学	林学	92	21	23
	農学	7	3	43
	農芸化学	4	1	25
	境界農学	2	2	100
	(海外)	7	2	29
小計		112	29	26
生物学	基礎生物学	18	2	11
	人類学	8	1	13
	(海外)	3	0	0
小計		29	3	10
複合新領域	環境学	7	3	43
	社会・安全システム 科学	4	2	50
	生物分子科学	3	0	0
	資源保全学	1	0	0
小計		15	5	33
総合領域	化学教育・教育工学	1	1	100
	文化財科学	1	1	100
社会科学	社会学	1	1	100
工学	総合工学	1	0	0
合計		160	40	25

平成18年度 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費補助金 新規採択課題

(単位:千円)

No	種目	課題名	所属	氏名	期間	平成18年度		平19	平20	平21	合計
						直接費	間接費	直接費	直接費	直接費	
1	基盤A 海外	フタバガキ科の系統地理学的研究と違法伐採抑止力のための塩基配列データベースの構築	森林遺伝	津村 義彦	18-21	8000	2400	10100	9100	5200	34800
2	基盤A 海外	東南アジア熱帯林の栄養塩利用および炭素固定能の評価と保全	植物生態	石田 厚	18-21	12400	3720	6700	6700	6100	35620
3	基盤B	ウルシの植物分類学的・木材解剖学的再検討と産地同定技術の開発	木材特性	能城 修一	18-20	5000	0	4900	3700	0	13600
4	基盤B	森林の縮小・分断化が小型哺乳類個体群の分布と遺伝的多様性に及ぼす影響の解明	北海道支所	石橋 靖幸	18-20	5800	0	3700	0	0	9500
5	基盤B	生物間相互作用に基づくニホンジカ密度の推定法と広域的な森林生態系管理手法の開発	関西支所	日野 輝明	18-20	6900	0	4000	4200	0	15100
6	基盤B	フルレンジ・スケーリングにおける根を含む樹木個体呼吸の一般化	東北支所	森 茂太	18-20	3500	0	2700	2600	0	8800
7	基盤B	湿地林を構成する希少木本種の繁殖と更新に及ぼす遺伝的過重の影響の解明	関西支所	石田 清	18-20	5300	0	3900	4100	0	13300
8	基盤C	国立公園をモデル区域としたランドスケープ構成要素の変動要因の解明	植物生態	千葉 幸弘	18-20	1700	0	1000	900	0	3600
9	基盤C	キタロバチーヤドリコナダニの共振化をモデルとしたパラサイト制御機構の解明	森林昆虫	岡部 貴美子	18-20	1600	0	700	800	0	3100
10	基盤C	一回結実性ササ属における開花メカニズムと遺伝構造の解明	北海道支所	北村 系子	18-19	1700	0	1700	0	0	3400
11	基盤C	森林タイプ・樹齢・地質の違いが底性動物の群集構造に与える影響の解明	関西支所	吉村 真由美	18-21	700	0	500	500	0	1700
12	基盤C	光合成生産および物質の貯蔵機能の評価に基づくブナ林堅果の豊凶作のメカニズムの解明	植物生態	韓 慶民	18-20	1100	0	1200	1100	0	3400
13	基盤C	スギ林「切り捨て間伐」が森林生態系の窒素動態に及ぼす影響の解明	立地環境	金子 真司	18-20	1100	0	1200	1000	0	3300
14	基盤C	屋外使用環境下における難燃処理木材の性能低下メカニズムの解明	木材改質	原田 寿郎	18-21	1100	0	800	800	0	2700
15	基盤C	木材とエタノールの反応によるアセトアルデヒド発生機構の解明	複合材料	塔村 真一郎	18-20	1700	0	900	900	0	3500
16	萌芽	菌類の匂いの適応的意義の解明	森林微生物	升屋 勇人	18-19	2200	0	1100	0	0	3300
17	萌芽	鳥類は樹木病原菌の伝搬にどのくらい関与するのか?	九州支所	佐橋 憲生	18-20	1200	0	1000	1100	0	3300
18	萌芽	アクアポリンと葉脈による葉の通水および光合成特性への効果	植物生態	石田 厚	18-20	1200	0	1000	1000	0	3200
19	萌芽	シロアリ口器運動と大顎の材料特性の解明	木材特性	鈴木 養樹	18-19	2700	0	700	0	0	3400
20	若手A	根の生理指標を用いた土壌酸性化に対する樹木への影響評価	関西支所	平野 恭弘	18-20	3800	1140	1400	800	0	7140
21	若手A	崩落岩塊群の長距離運動機構の解明と数値モデルの構築	水土保持	岡田 康彦	18-20	4400	1320	2100	700	0	8520
22	若手B	高等学校での環境教育と林業教育を統合した新たな森林環境教育に関する提言	森林管理	井上 真理子	18-20	1200	0	800	800	0	2800
23	若手B	タケ等早生未利用資源の酵素分解に対する抵抗性出現機構を利用した資源化に関する研究	きのこ・微生物	下川 知子	18-20	1900	0	800	700	0	3400

24	若手B	定点連続観測と地表面計測の融合による地すべり土塊の移動－変形機構の解明	水土保全	岡本 隆	18-20	1200	0	800	1000	0	3000
25	若手B	信頼と社会規範が森林所有者行動に与える影響	東北支所	林 雅秀	18-20	700	0	1100	500	0	2300
26	若手B	ヤブツバキ－ユキツバキ交雑帯における遺伝的変異の解明	森林遺伝	上野 真義	18-20	800	0	1500	500	0	2800
27	若手B	森林浴由来の視覚・聴覚刺激がもたらす生理的影響－複合効果と全身的協働に着目して－	構造利用	森川 岳	18-20	1000	0	1000	600	0	2600
28	若手B	RNA干渉を用いたマツノザイセンチュウにおける植物細胞壁分解酵素の役割解明	森林微生物	菊地 泰生	18-20	1300	0	1100	1000	0	3400
29	若手B	昆虫ウイルスの遺伝的多様性維持機構に関する進化生態学的研究	森林昆虫	高務 淳	18-20	1800	0	800	1000	0	3600
30	若手B	森林小流域における土壌及び湧水からの亜酸化窒素年間放出量及び生成経路の解明	立地環境	森下 智陽	18-20	1500	0	1000	800	0	3300
31	若手B	EST情報を活用したスギ雄性不稔原因遺伝子の解明	生物工学	二村 典宏	18-20	1200	0	1200	1000	0	3400
32	若手B	病原体とその媒介者の両方をターゲットにしたマツ材線虫病の微生物的防除	森林昆虫	前原 紀敏	18-20	1500	0	700	700	0	2900
33	若手B	島嶼生態系における侵入種の拡散および適応機構の解明	北海道支所	山下 直子	18-20	1400	0	1200	900	0	3500
34	若手B	熱帯二次林構成樹木の光合成特性と萌芽能力の解明	海外	田中 憲蔵	18-20	800	0	800	800	0	2400
35	若手B	スギの歴史をスギにいる虫の遺伝子で調べる	森林昆虫	加賀谷 悦子	18-19	900	0	900	0	0	1800
36	若手B	日本侵入100年後のマツノザイセンチュウの遺伝的構造と生物学的特性の解明	九州支所	秋庭 満輝	18-20	1300	0	1300	800	0	3400
37	若手B	東シベリアにおける同位体年輪気候学的解析のための基礎研究	木材特性	香川 聡	18-19	1700	0	500	0	0	2200
38	若手B	土壌中における二酸化炭素濃度の鉛直・水平分布と時間変動の解明	気象環境	安田 幸生	18-19	1700	0	500	0	0	2200
39	若手B	超臨界二酸化炭素を用いた木材の新規アセチル化処理法の開発	木材改質	松永 正弘	18-19	2200	0	1400	0	0	3600
40	若手B	組換え遺伝子拡散防止のための樹木の開花制御	生物工学	伊ヶ崎 知弘	18-20	1400	0	1200	800	0	3400
						98600	8580	69900	51900	11300	240280

平成18年度先端技術を活用した農林水産研究高度化事業

2006.4.21

(採択課題)

NO.	受付 番号	課題 番号	応募区分	応募課題名	中核 機関	研究総括者	共同機関名	研究期間
1	189	1801	I①全国領域設定型研究 ア.一般型	外来野生動物等による新たな農林被害防止技術の開発	森林 総研	野生動物研究領域 小泉 透	1: 埼玉県農林総合研究センター・兵庫県立人と自然の博物館・福岡県森林林業技術センター・熊本県林業研究指導所2: 北海道大学(文学部)・日本獣医畜産大学(獣医学部)・麻布大学(獣医学部)・岐阜大学(応用生物科学部) 3: (独)農業・特定生物産業研究機構(近畿中国四国農業研究センター)・(独)林木育種センター(九州育種場) 4: (株)野生動物保護管理事務所	2006～2008
2	170	1804	I①全国領域設定型研究 ア.一般型	スギ雄花形成の機構解明と抑制技術の高度化	森林 総研	生物工学研究領域 篠原 健司	1: 山形県森林研究研修センター・富山県林業技術センター・林業試験場・福島県林業研究センター・神奈川県自然環境保全センター・石川県林業試験場・静岡県林業技術センター・新潟県森林研究所・青森県農林総合研究センター・林業試験場 2: 富山県立大学 4: 気象業務支援センター・シンジェンジャパン株式会社	2006～2008
3	173	1821	I②地方領域設定型研究	関東中部の中山間地域を活性化する特用林産物の生産技術の開発	森林 総研	きのこ・微生物研究領域 馬場崎勝彦	1: 岐阜県森林科学研究所・茨城県林業技術センター・栃木県林業センター・群馬県林業試験場・埼玉県農林総合研究センター・長野県林業総合センター・山梨県森林総合研究所・新潟県森林研究所・静岡県林業技術センター	2006～2010
4	188	1871	II②広域ニーズ・シーズ対応型研究	栽培きのこのウイルス検出技術の開発	森林 総研	きのこ・微生物研究領域 馬替 由美	1: 長野県野菜花き試験場・群馬県林業試験場 4: 千曲化成株式会社・北研株式会社	2006～2008
5	177	1872	II②広域ニーズ・シーズ対応型研究	航空写真とGISを活用した松くい虫ピンポイント防除法の開発	森林 総研	森林管理研究領域 中北 理	1: 秋田県森林技術センター・岩手県林業技術センター 4: 共立航空撮影株式会社	2006～2008
6	178	1873	II②広域ニーズ・シーズ対応型研究	木質系廃棄物を利用した軽量で安全な屋上・壁面緑化法の開発	森林 総研	複合材料研究領域 高麗 秀昭	1: 千葉県農業総合研究センター 4: 大建工業株式会社	2006～2008
7	175	1897	III 府省連携型研究	竹地域資源を活用した環境調設機能を持つ複合建築ボードの開発	森林 総研	複合材料研究領域 洪沢 龍也	1: 大分県産業科学技術センター・鹿児島県工業技術センター 2: 同志社大学(工学部)	2006～2008

(研究管理科地域林業室)